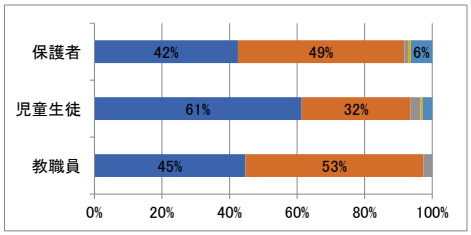
令和７年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

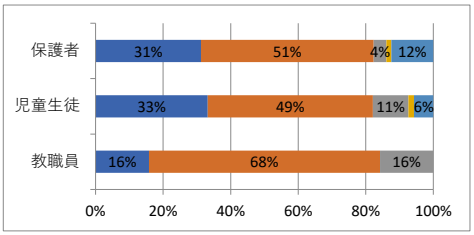
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

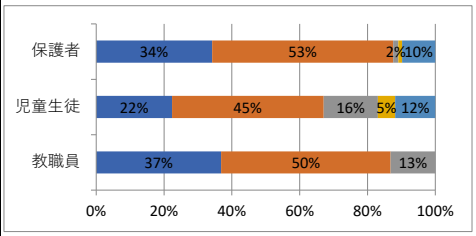
学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

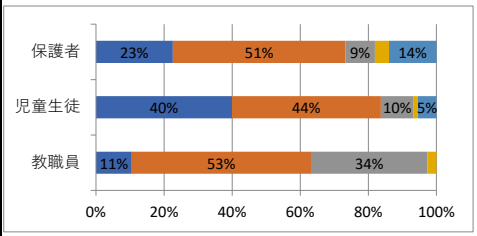
学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



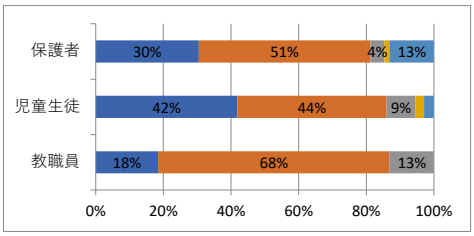
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



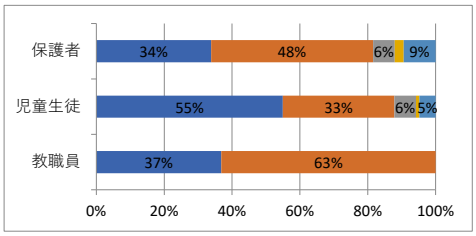
学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

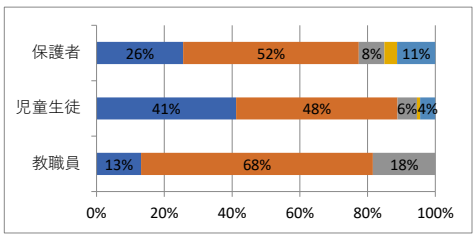
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



考察

１保護者、児童、教職員共に9割以上が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答で、高い評価だった。特に児童の評価は高く、自己肯定感が高めの児童が比較的多いと思われる。
２教職員、児童生徒、保護者の全てで「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答が8割をこえた。教職員においては「どちらかといえば、そう思わない」が16%、保護者においては「わからない」が12%であった。校内研修を通じて、児童が自ら進んで学びに向かっていく授業づくりに力を入れ、授業参観や通信等で保護者へ学校教育についての情報を公開していく必要がある。

３　「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答の割合が保護者と教職員が８割なのに対して、児童は６割と差がある。したがって、学級活動や委員会活動、総合的な学習の時間などを通して、児童が主体的に取り組める場を積極的に作る必要があると考えられる。

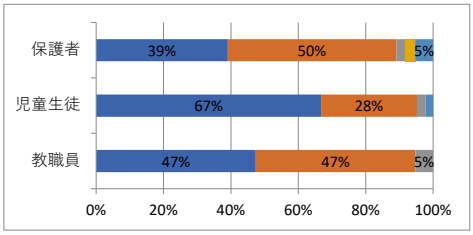
4の問に対し、児童生徒のみ「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が8割を超える結果となった。教職員においては、4割弱が「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」という結果だった。授業づくりにおいて児童が自ら学びに向かって選択しながら学習を進めらるような課題を設定していく必要がある。
５の問に対し、教職員、児童生徒、保護者全てにおいて8割以上「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えている。今後も効果的な場面で対話を取り入れ、考えを深めていけるような授業づくりを行っていきたい。

６「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を含めると教職員の回答の割合は10割である。しかし、保護者や児童との回答の割合とは差が見られるため、温かな学級風土を醸成し、相談したり助けを求めたりしやすい環境を学校全体で整えていく必要がある。
７「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の児童の回答の割合がおよそ９割である一方で、保護者の回答の割合は８割弱と低かった。今後も正しい理解と認識を深めていくために「交流及び共同学習」を積極的に進めるとともに、おたよりなどで啓発を図りながら互いの理解が深まるようにしていく必要がある。

（3）最適な教育環境の整備

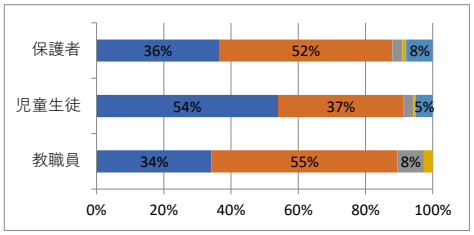
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。



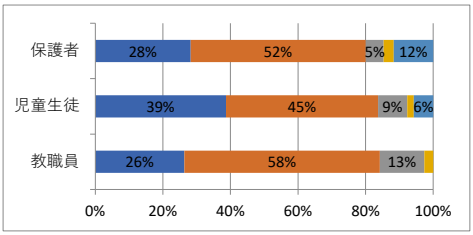
8　昨年度に比べて「そう思う」と回答した保護者、教職員、児童生徒の割合が若干高くなっている。これは、避難訓練の回数を増やし、安全や防災に関する意識が高まってきていると考えられる。

9　保護者・教職員の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答の割合は昨年度と変わらないが、児童生徒が若干高くなっている。今後も学校から積極的に情報を発信しながら、保護者や地域の方が授業や行事に参加してもらう機会をつくり、連携を図っていきたい。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

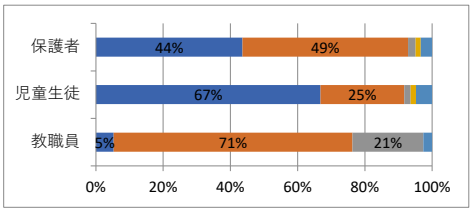


10　児童や保護者の回答の割合をみると全体的に「どちらかといえば、そう思う」が半数を占めている。教育相談も事前に懇談会や通信等で呼びかけるなど、相談しやすい雰囲気づくりをする必要がある。校内支援委員会を核として、チームで対応しているが、保護者へもその取り組みを分かりやすく伝えていく必要がある。

独自項目

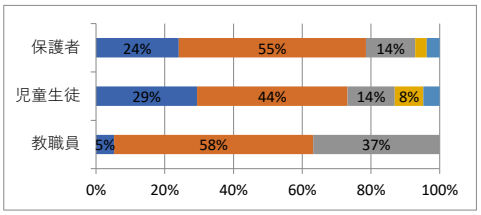
独自項目1

こどもは、自分自身と他の人を大切にしていると思いますか。



独自項目2

こどもは、話をよく聞き、自分の思いや考えを発表することができていると思いますか。

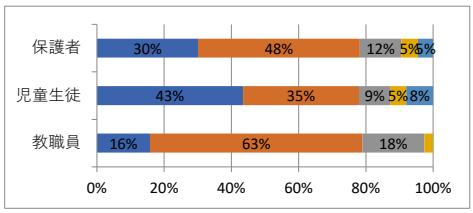


独自項目１　９割の児童・保護者が肯定的に捉えている。しかし、１割の児童・保護者は「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と答えており、少数派の考えや意見が言える、またその意見をしっかりと聞き大切にできる学級・学校の風土づくりが必要と考える。

独自項目２　児童、保護者は7割以上が肯定的に捉えている。一方で、教職員は6割程度しか肯定的に捉えておらず、ずれが生じている。三和中校区の「聴き方あいうえお」の徹底と共通実践を通して、全職員の意識を揃えていく必要がある。また、自分の考えを表現する場を確保した授業づくりも必要である。

独自項目3

こどもは、体力向上に努めていると思いますか。



独自項目３　保護者、児童、教職員とも肯定的な意見が８割ほどあった。業間や休み時間を通して、外遊びに励んでいる様子もあるので、体を動かすことは好きな児童が多いと思われる。体育の授業をはじめ、様々な活動を通して体力を高める取組の一層の充実を図りたい。

来　年　度　の　具　体　的　な　取　組　に　つ　い　て

○授業の単元計画の中で、子どもたち自らが課題を見つけ、取り組んでいくことができるような授業づくりを行っていく。また授業における教師の役割を見直し、適切な発問や問いかえしなどのスキルを身につけることができるような校内研修の取り組みを行う。

○課題に対して子どもたち一人ひとりが主体的に取り組めるような支援を用意したり、個別やペア、グループなど様々な学習形態を効果的に取り入れた授業展開を行っていく。さらに対話を通して考えを深めることができるように、考えを伝えたり友達の考えに対して問い返したりすることができるようなスキルを、学校全体で共通実践していく。

○三和中校区の共通実践である「聴き方あいうえお」を徹底指導し、学年が上がっても学びが積み上がっていくように、発達段階に応じたスキルを授業やハッピータイムを活用して身につけていく。

○８の項目については、安全について自分事として考えることができるように、訓練などの振り返りを児童も行うことで、安全意識の定着を図る。また、月初めの月曜日の朝に、放送委員から「今日１日、危険な場所、壊れている場所がないか確認しましょう。見つけたら先生たちに伝えましょう。」と放送を入れてもらう。

小　中　学　校　関　係　者　評　価

子どもたちはしっかり自分の意思を伝え、先生もしっかりその思い・意見をくみ取りながら受け答えをしている様子が見られ、子どもたちもうれしく思っていると感じた。

1学期よりも３学期の授業の様子が全体的に落ち着いているような雰囲気があった。

３年生（キャベツ栽培）や５年生（お米作りの一貫として「木村のあられ」あられ開発プロジェクト）など地域と関りのある行事・取組がありよかった。

教職員による自主的な学び合いの場「つながるcafé」の取組は、世代間交流もあり学びの意識の高まりもあり良い。

「AI」を取り入れた教育も必要ではないか。AIを使う時と使わない時のバランスが大切。情報モラルも大切。

今年度8月に起った豪雨について、今後も数時間で状況が急変することがあるので、訓練が必要である。

近隣の交通量も増え、登下校（特に朝）の安全面が心配。十分気を付けて登校できるようする必要がある。